

生活科において求められる学力の変遷

— 社会とのかかわりに焦点をあてて —

永田 成文・別府 志保

Changes of the pupils' ability demanded in life environment studies

— Focusing on the relation with society —

Shigefumi NAGATA and Shiho BEPPU

要 旨

文部省は平成 10 年に、生活科が導入されてから初めての学習指導要領の改訂を行った。生活科の導入期に取り上げられていた社会科の流れをくむ、買い物、乗り物、郵便等の活動は、年次を追っていくごとに次第に姿を消していった。本稿では、生活科が大切にしている活動や育もうとする学力がどのように変わってきたのかについて、学習指導要領や教科書や授業実践から分析した。導入期の生活科では、人々や公共物とのかかわりを見つめるという社会認識の芽や生活で必要となる技能を育成するために、買い物、乗り物、郵便等の活動が取り上げられていた。改訂後の生活科では、大単元の形式をとり、人々や地域とのかかわりを深める様々な活動を取り入れ、物事を企画したり、地域で生活するために必要な総合的な学力の育成を目指すようになった。

I. 生活科の現状と課題

平成元年度版学習指導要領から小学校低学年の教育課程において、社会科が廃止され生活科が導入された。小学校低学年で生活科が導入されてから今日まで、様々な意見や評価がなされている。

生活科の導入に対して、「生活科は知識と態度との統一的な育成に反する」や「児童の自律的、論理的思考を深める知育が軽視され、生活作法の形式的な訓練の場となる」等の反対論があったが、実際に生活科の授業が行われるようになるとこのような反対論はなくなっていった¹⁾。寺本潔氏は、生活科の導入による授業を行う側の変化として、一斉授業一辺倒をなくした、教師同士が授業で交流するようになった、授業スタイルが変わった、指導から支援が変わった、評価が変わった、遊びも学習に加わった、学校外教材が増えた、五感が教材になったことを挙げている²⁾。澤田妙子氏ほかは、生活科の導入による授業を受ける側の変化として、自分で計画したり工夫したりするようになってきた、実践する力が身についてきた、進んで自分を表現するようになってきた、強調して活動する態度が身についてきた、動植物に親しむようになってきた、自分に自信をもつようになってきたことを挙げている³⁾。教育課程審議会は、平成 10 年度版学習指導要領生活科改訂の際に、生活科はおおむね意欲的に学習や生活をしようとする態度が育っている状況にあるとしている⁴⁾。このように生活科の導入により、教師の指導方法が工夫され、児童の学習に対する取り組みが積極的になった等の肯定的意見が多い。生活科における具体的な活動や体験を通じた児童の学びや個別指導の重視という新しい教育のかたちは総合的な学習の時間の萌芽となり⁵⁾、生活科は教科としての地位を確立していると言える。

日本生活科・総合的学習教育学会は、生活科の好き嫌い、心に残る生活科の活動、生活科で身に付いたと思う力について調査を行っている⁶⁾。

図1は生活科の好き嫌いについての調査結果である。大好き、やや好きと答えている児童・生徒が8割を超えており、生活科は概ね肯定的に受け入れられている。

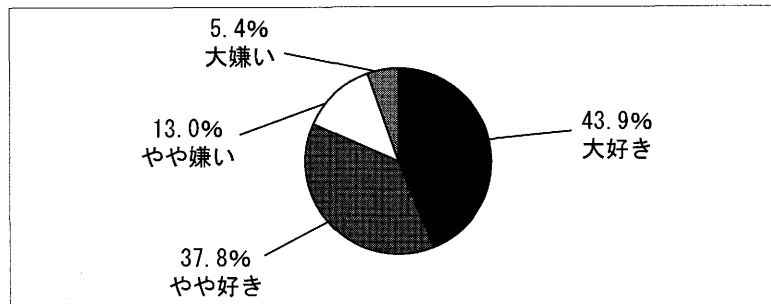


図1 生活科の好き嫌い

野田敦敬他「生活科で育った学力についての調査研究」p.101より作成

図2は心に残る生活科の活動についての調査結果である。①～⑧・⑱が自分と社会とのかかわりに関する活動、⑨～⑱が自分と自然とのかかわりに関する活動、⑰⑱が自分自身に関する活動である。全体的にみて、自分と社会とのかかわりに関する活動は児童・生徒にとって印象が低い。特に、家族や地域の人々とかかわる活動や町に出て公共物を利用する活動が低い。

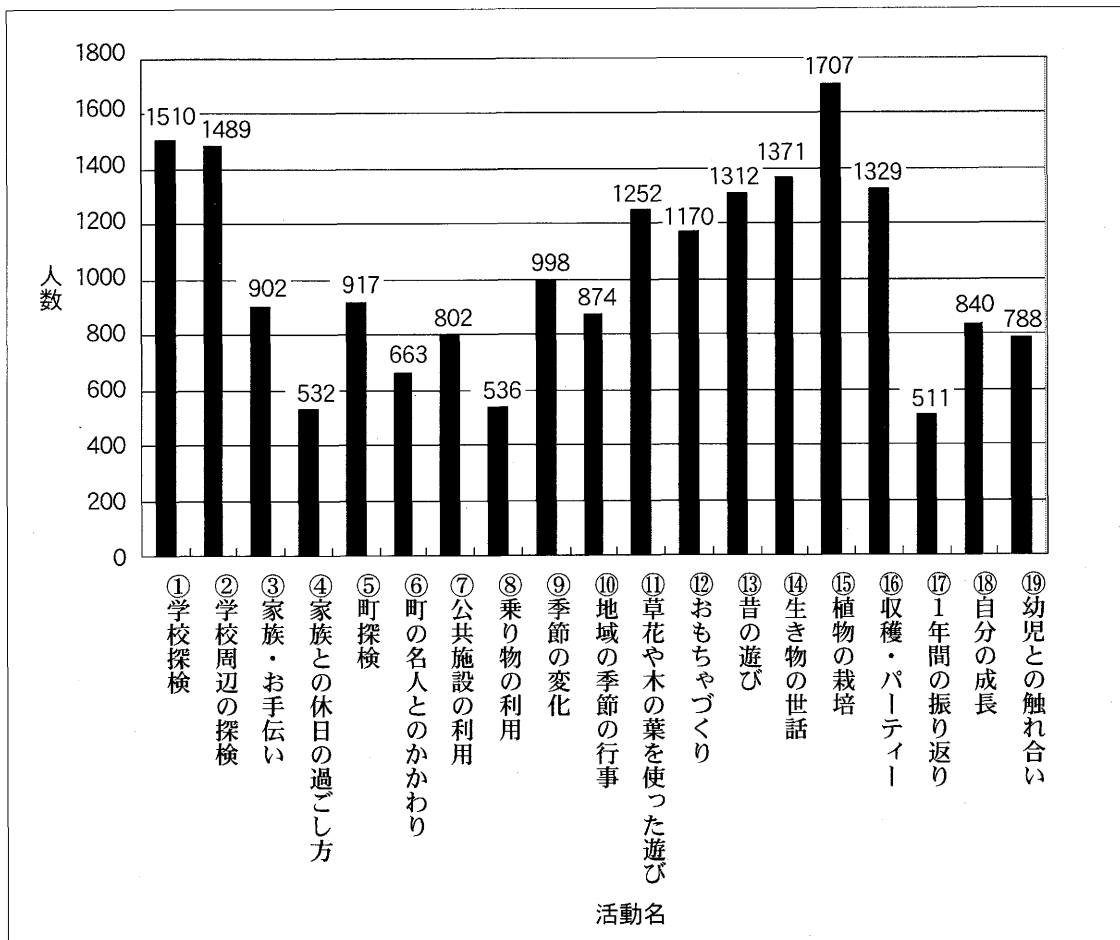


図2 心に残る生活科の活動

野田敦敬他「生活科で育った学力についての調査研究」p.102、108-109より作成

図3は生活科で身についたと思う力についての調査結果である。①～③が自分と自然とのかかわりに関する力、④～⑦が自分と社会とのかかわりに関する力、⑧～⑫が自分自身の学習上の自立、⑬～⑯が自分自身の生活上の自立、⑰～⑳が自分自身の精神的な自立に関する力である。動植物への親しみや自然を大切に作る心等、自分と自然とのかかわりに関する力が身に付いたと感じる児童・生徒は多いが、町の人・もの・ことに関心をもち、自分と社会との関わりに関する力が身に付いたと感じる児童・生徒は相対的に低い。

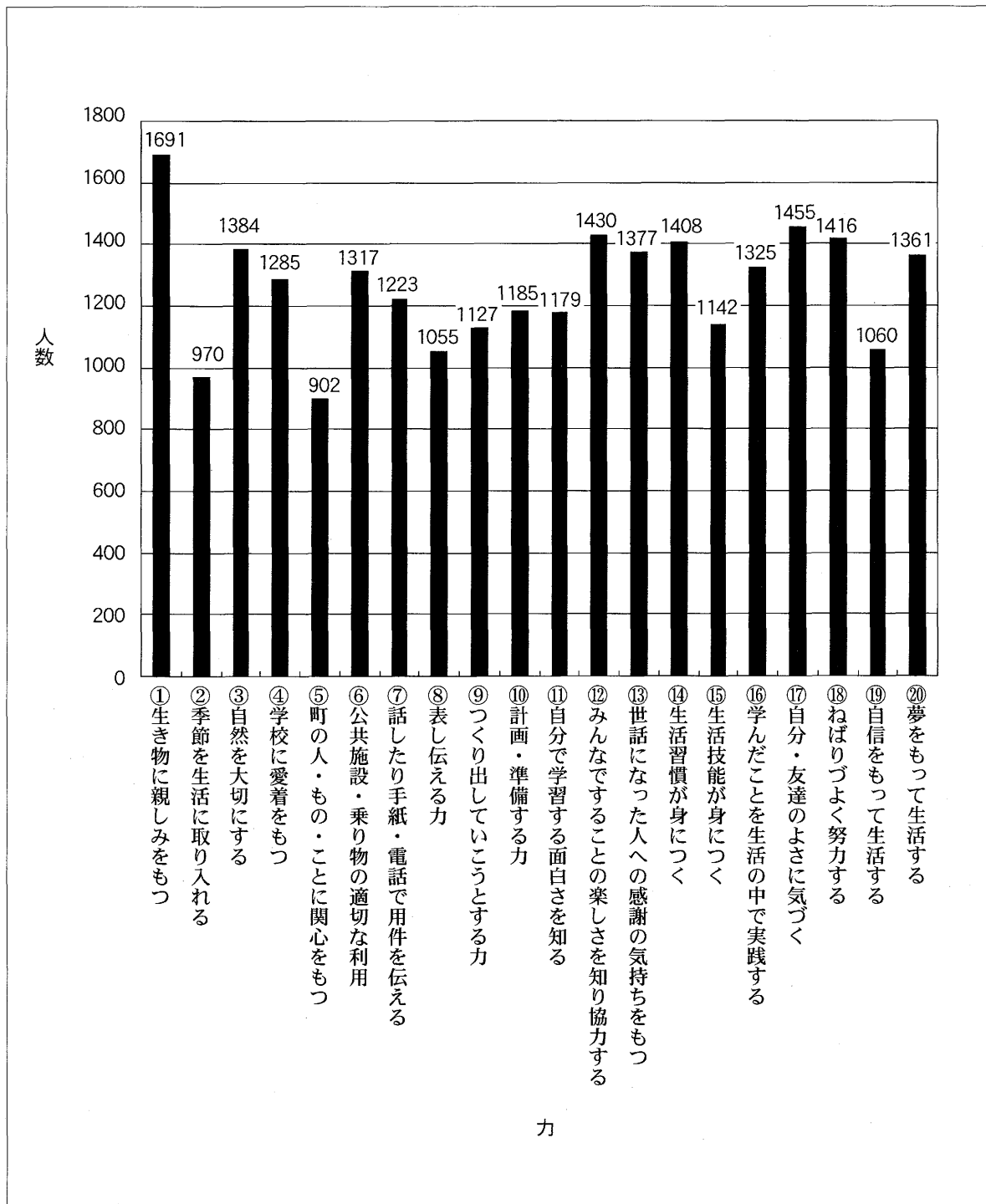


図3 生活科で身に付いたと思う力

野田敦敬他「生活科で育った学力についての調査研究」p. 103、109より作成

生活科が導入されたことで、学校教育全体により影響を与えたという意見や、生活科を肯定的にとらえている児童・生徒が多いが、自分と社会とのかかわりに関する項目は、生活科を受けた児童・生徒の心に残る活動と身に付いた力のそれぞれにおいて低い評価となっている。

生活科では、社会科の流れをくむ自分と社会とのかかわりに関する内容について、単に活動することで終わることなく、活動を振り返り、学びを自覚させるような手だてが必要である。

Ⅱ. 小学校低学年社会科と生活科において求められる学力の違い

1. 昭和 52 年度版学習指導要領低学年社会科と平成元年度版学習指導要領生活科の比較

昭和 52 年度版学習指導要領社会科と平成元年度版学習指導要領生活科の教科目標を比較すると（表 1 参照）、社会科では社会生活についての理解を深め、公民的資質の基礎を養うことをねらいとし、生活科では社会生活に関心をもたせ、自立への基礎を養うことをねらいとしている。

社会科では、第 1 学年で、身の回りの社会事象が自分たちの生活の中で果たしているはたらきに気付かせ、社会の一員としての意識をもつこと、第 2 学年で、人々が携わっている仕事は自分たちの生活に必要なものであると気付かせることをねらいとしている。生活科では、自分と社会とのかかわりに関する目標(1)で、自分と人々、公共物とのかかわりに関心もち、社会の一員として適切に生活できることをねらいとしている。社会科では、知識・理解を中心とした力を、生活科では、態度・能力を中心とした力を求めている。

内容を比較すると（表 2 参照）、第 1 学年では、両教科とも児童が小学校生活になじみ、身近な社会事象に関心をもつことが大切であるという観点から、学校生活や家庭生活、近所の公園や公共施設等を学習対象としている。社会科では自分たちの生活が人々の仕事によって支えられていることに気付かせるのに対し、生活科では学校や家庭や身近な地域において生活できることを内容としている。第 2 学年

表 1 低学年社会科と生活科の目標

社会科	生活科
<p>〔教科目標〕</p> <p>社会生活についての<u>基礎的理解</u>を図り、我が国の国土と歴史に対する<u>理解と愛情</u>を育て、民主的、平和的な国家・社会の形成者として必要な<u>公民的資質の基礎</u>を養う。</p>	<p>〔教科目標〕</p> <p>具体的な活動や体験を通して、自分と身近な社会や自然とのかかわりに関心もち、自分自身や自分の生活について<u>考えさせるとともに</u>、その過程において生活上必要な<u>習慣や技能</u>を身に付けさせ、自立への基礎を養う。</p>
<p>〔第 1 学年〕</p> <p>(1) 自分たちの生活を支えている人々の仕事や施設などはたらきに気付かせ、<u>社会の一員としての意識</u>をもつようにさせる。</p> <p>(2) 日常生活で経験する社会的事象を具体的に観察させ、効果的に表現させる。</p> <p>〔第 2 学年〕</p> <p>(1) 職業としての仕事に携わっている人々はそれぞれ工夫していることや、それらの仕事は自分たちの生活にとって必要なものであることに気付かせる。</p> <p>(2) 職業としての仕事を具体的に観察させ、効果的に表現させる。</p>	<p>〔第 1 学年・第 2 学年〕</p> <p>(1) 自分と学校、家庭、近所などの人々及び公共物とのかかわりに関心もち、<u>集団や社会の一員として</u>自分の役割や行動の仕方について考え、適切に行動することができるようにする。</p> <p>(2) 自分と身近な動物や植物などの自然とのかかわりに関心もち、自然を大切にしたり、自分たちの遊びや生活を工夫したりすることができるようにする。</p> <p>(3) 身近な社会や自然を観察したり、動植物を育てたり、遊びや生活に使うものを作ったりなどして活動の楽しさを味わい、それを言葉、絵、動作、劇化などにより表現できるようにする。</p>

出典：文部省『小学校指導書社会編』1982 と文部省『小学校指導書生活編』1989（下線：筆者）

表3 有田和正氏の実践「ポストづくり」の授業展開

【学習の流れ】	
1. ポストの構造を具体的に表現しながら問題をつかむ。	…4 時間
2. 本物のポストを見て、グループでポストづくりをする。	…2 時間
3. できたポストを使って、「郵便ごっこ」をする。	…2 時間
4. 郵便局の見学をする。	…2 時間
5. ポストから集められた手紙は、どのようにして相手に届くかを調べて、紙芝居や絵巻物にまとめる。	…2 時間
【「郵便やさんごっこ」の様子】	
<p>以下は、郵便局員がポストの中の手紙を取り出す場面のごっこである。</p> <p>郵：今、自動車を止めたところです。車からおりて、うしろのドアをあけます。中から2つの袋を出します。</p> <p>C：何色と何色か？</p> <p>郵：オレンジ色と青の袋です。</p> <p>C：どちらが東京都？</p> <p>郵：わかりません。調べておきます。袋をとって、ポストの所へ走って行きます。</p> <p>C：走ってないじゃないか！</p> <p>郵：失礼しました（走るまねをする。大笑い）。ポストのカギをあけて、中の袋をとりかえます。</p> <p>C：ストップ。今どこからカギ出した？</p> <p>郵：ズボンのポケットからよ。</p> <p>C：違うよ。僕の見た人は、上着のポケットから出していたよ。</p> <p>郵：私の見た郵便やさんは、カギにひもをつけて、ズボンのバンドにくっつけていたよ。</p> <p>C：私の見た人は、10本くらいのカギを輪にしたものをもって、チャカチャカ言わせながら歩いてきて、その中の1本のカギであけてたよ。</p>	

出典：有田和正『学級作りと社会科授業の改造 低学年』明治図書、1985、pp. 165-178

表4 森田隆氏の実践「『子どもゆうびん局』を開こう」の授業展開

【学習の流れ】	
1. 手紙自慢大会を開く。	…1 時間
2. 手紙を書く。	…2 時間
3. 手紙がどこへ行くのか追う。	…1 時間
4. 郵便局の見学をする。	…2 時間
5. “手紙のたびをすごろくにしよう”	…2 時間
6. 郵便やさんごっこをする。	…7 時間
【「郵便やさんごっこ」の様子】	
<p>《第9時》</p> <p>T：郵便やさんしてみたい、という声があるので、郵便ごっこしよかぁ。</p> <p>C：やったあ！バンザーイ C：よーし、はじめよう。 C：おれ、配達したいな。 C：わたしも。</p> <p>C：スタンプ押したい。 C：先生、スタンプどうするの？ C：手紙もないよ。</p> <p>T：郵便ごっこするには何があったらいいの。</p> <p>次のものが出される。 ・ポスト ・切手 ・ふうとう ・スタンプ ・カバン</p> <p>《第10～12時》</p> <p>グループごとにポスト、はがき、封筒を作り始める。ポストのでき上がりはグループごとに少しずつ異なる。ひさしの形がちがう。ひさしのないグループもある。手紙・はがきと口の下に表示されているものもあればないものもある。</p> <p>T：困ったなあ、これじゃ手紙を入れる人が困っちゃう。</p> <p>もう1度よく見てこよう、ということになる。こうして、ポストが出来上がる。その他に切手、はがき、封筒、スタンプ、カバン、便箋が用意される。</p> <p>《第13時》</p> <p>C：早くやろう。 C：先生、配達したい！ C：わたしも。 C：困ったなあ、どうしようか。 C：班ごとにしようよ。</p> <p>話し合いの結果、ローテーションで仕事をする事になり、各かかりは1日ごとに交代することに決まった。まず全員が手紙を書く。手紙が書ければ、各階に置かれたポストに投函。</p>	

出典：生活科教育研究協議会編『わたしたちの創る生活科』あゆみ出版、1992、pp. 100-108

ストを調べることで、手紙の大切さ、ポストの頑丈さに気付き、新しい問題を発見して、さらに追究していく。郵便局員がどのように手紙を取り出すのかについて、児童に動作を声に出して説明させるという「郵便やさんごっこ」をしながら、郵便局員の工夫や努力についての理解を深めていくとともに、また新たな問題を発見していく。

表4は『子どもゆうびん局』を開こうの授業展開を示したものである。この授業は手紙を書くことをきっかけに、見学をして郵便局の仕組みをつかみ、「郵便やさんごっこ」をする。郵便屋さんごっこをするには何が必要か考えたり、グループに分かれてポストや切手、はがき、封筒を作ったり、話し合ったりする。このように、児童が協力し合いながらごっこ活動を進めている。

有田氏のごっこ活動は、郵便物がどのように運ばれるのかといった仕組みや、郵便局員の仕事の工夫や努力に気付くための活動である。森田氏のごっこ活動は、実際に手紙を書いたり出したりすることができるための活動である。試行錯誤しながら物を作り、みんなで協力し合っごっこ活動をすることで、どうしたら手紙がうまく届くかという思考や、皆で順番に仕事を回していこうとする協調性や、物を作るという表現力や、どのようになっているのかという観察力を育成することができる。

このように社会科の実践では、社会のしくみがわかる力が求められていたが、生活科の実践では、社会で生活できる力が求められている。

III. 生活科において求められる学力の変遷

1. 平成元年版学習指導要領生活科と平成10年版学習指導要領生活科の比較

教育課程審議会は平成9年11月の中間まとめにおいて、生活科の現状と課題を指摘し、平成10年7月の答申で基本方針を次のように提言した⁹⁾。

児童が身近な人や社会、自然と直接かかわる活動や体験を一層重視し、こうした活動や体験の中で生まれる知的な気付きを大切にする指導が行われるようにするとともに、各学校において、地域の環境や児童の実態に応じて創意工夫を生かした教育活動や、重点的・弾力的な指導が一層活発に展開できるように内容の改善を図る。

平成元年度版と平成10年度版学習指導要領生活科の教科目標を比較すると(表5参照)、平成10年度版には身近な社会や自然の中に、人々という文言が新たに加えられた。人々とのかかわりに関心をもつことを強調している。

学年目標を比較すると、目標(1)においてそれらに愛着をもつ、目標(3)において人々と気付きという文言が付け加えられた。それらに愛着をもつとは、身近な人々や場所、公共物などに慣れ親しみ、それらに心がひかれ、離れがたく感じることで¹⁰⁾、地域の人々や公共物に繰り返しかかわることで様々なことに気付いたり、慣れ親しんだりすることが必要である。知的な気付きとは、児童が生活や学習に対して一層意欲と自信をもって取り組んでいくようになる土壌であり¹¹⁾、楽しんで終わるという活動ではなく、その後の学びが広がり、深まっていく契機となる活動が必要である。

教科内容を比較すると(表6参照)、平成元年度版では自分と社会とのかかわりに関する内容は各学年で3項目が示されていたが、平成10年度版学習指導要領では、1・2学年で学校と生活、家庭と生活、地域と生活、公共物や公共施設の利用の4項目で再構成された。

低学年社会科からの流れをくむ活動である買い物や電話や手紙や乗り物の文言は、平成10年度版学習指導要領では削除されている。このことについて、小学校学習指導要領解説生活編では次のように説明している¹²⁾。

従来の生活科の問題点として、内容に公園、乗り物、駅などの具体的な例示があることによって、

表5 平成元年度版と平成10年度版学習指導要領生活科の目標

平成元年度版学習指導要領	平成10年度版学習指導要領
<p>具体的な活動や体験を通して、自分と身近な社会や自然とのかかわりに関心を持ち、自分自身や自分の生活について考えさせるとともに、その過程において生活上必要な習慣や技能を身に付けさせ、自立への基礎を養う。</p>	<p>具体的な活動や体験を通して、自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心を持ち、自分自身や自分の生活について考えさせるとともに、その過程において生活上必要な習慣や技能を身に付けさせ、自立への基礎を養う。</p>
<p>(1) 自分と学校、家庭、近所の人々及び公共物とのかかわりに関心を持ち、集団や社会の一員として自分の役割や行動の仕方について考え、適切に行動することができるようにする。</p> <p>(2) 自分と身近な動物や植物などの自然とのかかわりに関心を持ち、自然を大切にしたり、自分たちの遊びや生活を工夫したりすることができるようにする。</p> <p>(3) 身近な社会や自然を観察したり、動植物を育てたり、遊びや生活に使うものを作ったりなどして活動の楽しさを味わい、それを言葉、絵、動作、劇化などにより表現できるようにする。</p>	<p>(1) 自分と身近な人々及び地域の様々な場所、公共物などのかかわりに関心を持ち、<u>それらに愛着をもつ</u>ことができるようにするとともに、集団や社会の一員として自分の役割や行動の仕方について考え、適切に行動することができるようにする。</p> <p>(2) 自分と身近な動物や植物などの自然などのかかわりに関心を持ち、自然を大切にしたり、自分たちの遊びや生活を工夫したりすることができるようにする。</p> <p>(3) <u>身近な人々、社会及び自然に関する活動の楽しさを味わう</u>とともに、それらを通して<u>気付いたこと</u>や<u>楽しかったこと</u>などを言葉、絵、動作、劇化などにより表現できるようにする。</p>

出典：文部省『小学校指導書生活編』1989、文部省『小学校指導書生活編』1999（下線：筆者）

表6 平成元年度版と平成10年度版学習指導要領生活科の社会とのかかわりに関する内容

平成元年度版学習指導要領	平成10年度版学習指導要領
<p>〔第1学年〕</p> <p>(1) 学校生活の様子及び先生など学校生活を支えている人々や友達のことがわかり、学校において楽しく遊びや生活ができるようにするとともに、通学路の様子などについて調べ、安全な登下校ができるようにする。</p> <p>(2) 家庭生活を支えている家族や家族の一員として自分でしなければならないことがわかり、自分の役割を積極的に果たすとともに、健康に気をつけて生活することができるようにする。</p> <p>(3) 近所の公園などの公共施設はみんなのものであることがわかり、それを大切にすることができるようにするとともに、身近な自然を観察し季節の変化に気付き、それにあわせて生活することができるようにする。</p> <p>〔第2学年〕</p> <p>(1) 自分たちの近所は近所の人や店の人など多くの人々とかかわっていることがわかり、日常生活に必要な<u>買い物</u>をしたり、<u>手紙</u>や<u>電話</u>などで必要なことを伝えたりするとともに、人々と適切に対応することができるようにする。</p> <p>(2) 乗り物や駅などの公共物の働きやそこで働いている人々の様子がわかり、安全に気をつけてみんなで正しく利用することができるようにする。</p> <p>(3) 季節や地域の行事にかかわる活動を行い、四季の変化や地域の生活に関心を持ち、また、季節や天候などによって生活の様子が変わることにより<u>気づき</u>、自分たちの生活を工夫したり楽しくしたりすることができるようにする。</p>	<p>〔第1学年・第2学年〕</p> <p>(1) 学校の施設の様子及び先生など学校生活を支えている人々や友達のことが分かり、楽しく安心して遊びや生活ができるようにするとともに、通学路の様子などに関心を持ち、安全な登下校ができるようにする。</p> <p>(2) 家庭生活を支えている家族のことや自分でできることなどについて考え、自分の役割を積極的に果たすとともに、規則正しく健康に気をつけて生活することができるようにする。</p> <p>(3) 自分たちの生活は地域の人々や様々な場所とかかわっていることがわかり、それらに<u>親しみ</u>をもち、人々と適切に接することや安全に生活することができるようにする。</p> <p>(4) 公共物や公共施設はみんなのものであることやそれを支えている人々がいることなどがわかり、それらを大切に、安全に気をつけて正しく利用することができるようにする。</p>

出典：文部省『小学校指導書生活編』1989、文部省『小学校指導書生活編』1999（下線：筆者）

これらに縛られる傾向にあることが指摘された。このような現状があることを踏まえて、内容から具体的な公共施設名を削除し、扱う対象や場を広く選択できるようにした。

このように平成10年度版では、内容が厳選され具体的な例示が削除されることによって、各学校において、地域や児童の実態に応じた弾力的な指導や多様な活動や体験が可能となった。

内容構成の視点を比較すると（表7参照）、平成10年度版学習指導要領では、学習活動を固定せず、地域の人々とのかかわりを重視するために、公園や乗り物、買い物、手紙や電話といった文言が削除され、地域の様々な人々との接し方が付け加えられた。

表7 平成元年度版と平成10年度版学習指導要領生活科の社会とのかかわりに関する内容構成の視点

	平成元年度版学習指導要領	平成10年度版学習指導要領
ア	[健康で安全な生活] ○健康や安全に気をつけて遊びや生活ができるようにする。	[健康で安全な生活] ○健康や安全に気を付けて、遊びや規則正しい生活ができるようにする。
イ	[身近な人々との接し方] ○家族や友達、先生などと適切に接することができるようにする。	[身近な人々との接し方] ○家族や友達や先生をはじめ、地域の様々な人々と適切に接することができるようにする。
ウ	[公共物の利用] ○公園や乗り物などの公共物を大切に利用できるようにする。	[公共の意識とマナー] ○みんなで使う物や場所、施設を大切に正しく利用できるようにする。
エ	[生活と消費] ○生活に使うものを大切に、計画的に <u>買い物</u> ができるようにする。	[生活と消費] ○生活に必要なものを <u>買った</u> り、計画的に、また大切に <u>使った</u> りすることができるようにする。
オ	[情報の伝達] ○日常生活に必要なことを、 <u>手紙や電話</u> などによって伝えることができるようにする。	[情報と交流] ○様々な手段を使って情報を <u>交わ</u> しながら、直接的間接的に相互に交流できるようにする。

出典：文部省『小学校指導書生活編』1989、文部省『小学校指導書生活編』1999（下線：筆者）

学習指導要領では、公園や乗り物、買い物、手紙や電話という公共物の利用、生活と消費、情報と交流にかかわる活動が固定されることなく柔軟に取り上げられるようになり、身近な人々や社会、自然に関する活動を通じた気付きや身近な地域の人々とのかかわりをさらに重視し、身近な地域への愛着をもつことが一層求められている。

2. 平成元年度版学習指導要領と平成10年度版学習指導要領に対応した教科書の比較

生活科が導入されてから、各教科書出版会社は教科書を3~4回改訂している。表8は、大阪書籍の教科書の目次¹³⁾である。

第1学年については、平成3年度用の目次で、学校探検や学校周辺（通学路、公園等）探検、家族を紹介したり、家庭の中で自分ができるお手伝いを見つけ実践するという児童が身近な社会とかかわる活動が取り入れられている。平成8年度用以降になると、通学路にかかわる活動から安全な登下校ができるための活動に変化しているが、平成12年度用において特に大きな変化はみられない。平成10年版学習指導要領に対応する17年度用で、大項目の数は減ったが、1つ1つの学習活動は保持されている。

第2学年については、平成3年度用の目次で、近所探検をしながらお店を見て買物をしたり、乗り物に乗ったり、郵便局を開いたり、児童が身近な社会とかかわる活動が取り入れられている。しかし、平成8年度用ではお店や買い物にかかわる活動がなくなり、平成12年度用では、乗り物や郵便にかかわる大項目がなくなり、平成10年版学習指導要領に対応する17年度用では、小項目としてもなくなっている¹⁴⁾。

表8 教科書項目の変遷(大阪書籍)

	平成3年	平成8年	平成12年	平成17年
1年	<p>平成3年</p> <p>1. うれしい1ねんせい ①みんなとともだちになろう ②がっこうたんけんをしよう ③がっこうにくるみちをしらべよう</p> <p>2. いきものなにかよし ①どんなはなをさかせようか ②はなのたねをまこう ③どうぶつともだちになろう</p> <p>3. ちかくのあそびば ①あそびばをしょうかいしよう ②こうえんへあそびにいこう ③いきものようすをみてみよう ④はながさいたよ</p> <p>☆ なつやすみをたのしくしよう</p> <p>4. たのしいあそび ①すなやつとあそぼう ②みずやかぜとあそぼう</p> <p>5. みつけたよあき ①はなのたねをとろう ②がっこうのまわりであきをみつけよう ③こうえんのあきをさがそう ④きのはやきのみであそぼう</p> <p>6. わたしのかぞく ①うれしかったことをおもいだそう ②かぞくの1にちをしょうかいしよう ③じぶんのしごとをさがそう ☆ ふゆやすみにしたいことをかるとにしよう</p> <p>7. ふゆをたのしく ①おしょうがつのことをはなそう ②さむさにまけないあそびをしよう ③こうえんでふゆをみつけよう</p> <p>8. もうすぐ2ねんせい ①1ねんかんをおもいだそう ②おたのしみかいをしよう ③1ねんせいをむかえるじゅんぴをしよう</p> <p>☆ 2ねんせいになったら</p>	<p>平成8年</p> <p>☆ うれしいな1ねんせい</p> <p>1. はるのがっこう ①がっこうをたんけんしよう ②いきものともだちになろう</p> <p>2. ちかくのこうえん ①がっこうのまわりをあるこう ②こうえんへあそびにいこう</p> <p>3. なつとあそぶ ①すなやみずとあそぼう ②はなであそぼう</p> <p>☆ なつやすみをたのしく</p> <p>☆ いきものだいすき</p> <p>4. わたしのかぞく ①かぞくのしごとをわきまをしよう ②じぶんのしごとをみつけよう</p> <p>5. みつけたあき ①がっこうやこうえんのあきをさがそう ②きのはやきのみであそぼう</p> <p>6. みんなのあそび ①しょうがつあそびをしよう ②ひろばでたこあそびをしよう</p> <p>☆ ふゆやすみをたのしく</p> <p>7. げんきなわたしたち ①ふゆやすみのことをはなそう ②さむさにまけないあそびをしよう ③こうえんでふゆをみつけよう</p> <p>8. もうすぐ2ねんせい ①1ねんかんをおもいだそう ②おたのしみかいをひらこう ③1ねんせいをむかえるじゅんぴをしよう</p> <p>☆ 2ねんせいになったら</p>	<p>平成12年</p> <p>1. うれしいな1ねんせい ①おはよう ②なかよくしよう ③よろしくね</p> <p>2. とびだせたんけんたい ①がっこうをたんけんしよう ②がっこうのまわりをあるこう ③こうえんであそぼう ④こんなところもあるよ</p> <p>3. いきものだいすき ①はなはいっぱいになあれ ②めがでた! ③ぐんぐんのびろ ④どうぶつとなかよしになろう</p> <p>4. なつをげんきに ①はながさいたよ ②すなやみずであそぼう ③たのしいなつやすみ ④おもいでたくさんできたよ ⑤たねをあつめよう</p> <p>5. みんなだいすき ①わたしのかぞく ②わたしのできること</p> <p>6. あきがっぱい ①がっこうのあきをさがそう ②いろいろなあきをみつけたよ ③きのはやきのみであそぼう ④はるにさくはなをそだてよう</p> <p>7. ふゆをたのしく ①さむさにまけるな ②ふゆをさがそう ③ふゆやすみをたのしく ④たのしかったよふゆやすみ ⑤みんなであそぼう</p> <p>8. わたしの1ねんかん ①おもいでがっぱい ②みんなチャンピオン ③おもいでをあつめよう ④あたらしい1ねんせいがくるよ</p>	<p>平成17年</p> <p>☆ よろしくね</p> <p>1. がっこうってたのしいな ①がっこうをたんけんしよう ②こんなことみつけたよ ③どんなはなをそだてようかな ④めがでたよ ⑤おおきなあれ ⑥みんなであそぼう ⑦もっとたんけんしよう ⑧はながさいたよ ⑨はなでつこうろ ⑩たねがいっぱいできたよ ⑪いきものともだちよくなりたいたい</p> <p>2. みんなだいすき ①こんなことできるよ ②だいすきなひとをしょうかいしたいな</p> <p>3. あきがっぱい ①がっこうのあきをみつけよう ②あきさがしにでかけよう ③つくってあそぼう</p> <p>4. ふゆをたのしく ①ふゆをさがそう ②げんきにすごそう</p> <p>5. はるがやってくる ①いろいろなことがあったね ②ようこそあたらしい1ねんせい</p>
2年	<p>平成3年</p> <p>1. わたしたちのすんでいるところ ①きんじょのようすをしらべよう ②いろいろなおみせをしてみよう ③かいものごっこをしよう</p> <p>2. 生きものせわ ①サツマイモのなえをうえよう ②いろいろなやさいをつくらう ③ザリガニやチャボをかおう ④ザリガニだよりをつくらう</p> <p>3. 夏をげんきに ①雨の日をたのしくすごそう ②夏の虫を見つけよう</p> <p>☆ わたしたちの夏まつりをしよう</p> <p>4. みんなのりもの ①のりものにのったことをはなそう ②えきのようすを見にいこう ③バスにのってみよう</p> <p>5. うれしいやさいのとりいれ ①サツマイモを見てみよう ②はたけや草木のようすを見にいこう ③秋のとりいれをいわおう</p> <p>6. わたしたちのゆうびんきょく ①てがみをだそう ②がっきゅうゆうびんきょくをひらこう</p> <p>☆ カレンダーをつくらう</p> <p>7. たのしいおもちゃたいかい ①うごくおもちゃや音の出るおもちゃをつくらう ②おもちゃたいかいをひらこう</p> <p>8. 冬のくらし ①冬をさがそう ②冬のいきものようすをしらべよう</p> <p>9. 大きくなったわたしたち ①大きくなったことをたしかめよう ②アルバムづくりをしよう</p> <p>☆ 3年生になったら</p>	<p>平成8年</p> <p>☆ 2年生になった</p> <p>1. たのしい春の町 ①すきなところをしょうかいしよう ②たんけんに出かけよう ③たんけんちずをつくらう</p> <p>2. 生きものがいっぱい ①水の中の生きものをかおう ②おいしいやさいをそだてよう</p> <p>3. 夏をげんきに ①雨の日をたのしくすごそう ②夏の虫をさがそう</p> <p>☆ 夏休みをたのしく</p> <p>4. みんなのりもの ①のりものにのったことをおもいだそう ②のりものにのって小さなたびをしよう</p> <p>5. みのりの秋 ①はたけやのやまのようすをみにいこう ②秋のとり入れをいわおう</p> <p>6. わたしたちのがみ ①てがみのひみつをしらべよう ②じぶんたちががみを出そう</p> <p>☆ 冬休みをたのしく</p> <p>7. 冬のくらし ①冬の町に出かけよう ②冬の生きものをさがそう</p> <p>8. おもちゃのくに ①かせとあそぼう ②たのしいおもちゃをつくらう ③おもちゃたいかいをひらこう</p> <p>9. 大きくなったわたしたち ①大きくなったことをたしかめよう ②じぶんのきろくをのこそう</p> <p>☆ 3年生になったら</p>	<p>平成12年</p> <p>1. 2年生になったよ ①1年生をむかえよう</p> <p>2. はるのまちにでかけよう ①みんなのまちをあるいてみよう ②であったよみつけたよ ③みつけたことをしょうかいしよう</p> <p>3. 生きものがいっぱい ①やさいをそだててみよう ②おいしいやさいをつくらう ③みつけたよ! ④生きものともだち ⑤早く大きくなあれ ⑥わあいできたよ ⑦雨の日にみつけたよ</p> <p>4. なつがきた ①なつの生きものをさがそう ②なつの生きもの大はっけん ③おもいでいっぱい</p> <p>5. おもちゃのくに ①なにをつくらうかな ②おもちゃをつくらう ③おもちゃであそぼう</p> <p>6. あきみつけ ①のりものにのって出かけよう ②でん車にのろう ③のやまのようすをみにいこう ④あきがっぱい ⑤あきのとり入れをしよう ⑥おまつりのじゅんぴをしよう ⑦さあ、おまつりだ!</p> <p>7. ふゆがやってきた ①ねんがじょうを出そう ②もうすぐふゆやすみ ③ふゆをげんきに ④ふゆをさがしに出かけよう</p> <p>8. すくすくそだったね ①生まれたころとくらべよう ②小さいときのことを聞いてみよう ③わたしのものがたりをつくらう</p>	<p>平成17年</p> <p>☆ がんばるぞ2年生</p> <p>1. 生きもの大すき ①こんなやさいをそだてたいな ②やさいをそだてよう ③ぐんぐんそだて ④わあい、みのったよ ⑤さがしにいこうよ ⑥げんきにそだてね ⑦しょうかいしたいな</p> <p>2. とびだせまちへ ①こんなところいきたいな ②出かけようはるのまち ③見て見て!きいてきて! ④ようすはどうかかなつのまち ⑤もっとまちのことしりたいな ⑥いっぱい見つけたあきのまち ⑦ようすがちがうぞふゆのまち ⑧こんなすてきなまちだよ</p> <p>3. わくわくどきどき、フェスティバル ①げいかくをたてよう ②じゅんぴをしよう ③フェスティバルへようこそ ④「ありがとう」はとでもすてき</p> <p>4. おもいでがいっぱい ①じぶんたんけんに出かけよう ②大きくなったじぶんをたしかめよう ③おもいでほっぴょうかいをしよう</p> <p>☆ ゆめがいっぱい</p>

出典：平成3年度用、8年度用、12年度用、17年度用の大阪書籍の教科書

買い物をすること、乗り物に乗ること、手紙を書くことは、児童が身近な地域で生活していくためには必要な活動であり、これらの活動を通して自分と社会とのかかわりを見つめることが可能であった。このような活動が17年度用の目次の上では姿を消した。しかし、町探検に行くという大項目の記述の中で、バスや電車に乗る様子の写真が掲載されている。また、1年間の振り返りの大項目の記述の中で、今までお世話になった人にお礼の手紙を書いている様子の写真が掲載されている。このように、公共物の利用、生活と消費、情報と交流にかかわる活動は単独ではなく、他の活動の一貫として取り上げられている。一方で、平成3年度用や平成8年度用や平成12年度用の教科書で、秋にかかわる大項目の一部として取り上げられていた秋の収穫を祝う活動は、平成17年度用教科書ではフェスティバルという大項目として格上げされている。フェスティバルでは、計画を立てる、準備をする、お客さんを招く、手紙を書くという一連の活動について比較的長い時数が確保され、大単元として実践されるようになっている。また、社会認識の芽を育成できる自分と社会とのかかわりをとらえる活動は町探検のみとなり、何度も町へ足を運ぶことを想定した大単元として構成されている。

近年の生活科では、大単元を設け、その中で様々な活動を取り入れることにより、児童に総合的な力を育成しようとしている。

3. 生活科の授業実践において求められる学力

児童自身で計画・準備したお店を開く「ごっこ活動」が展開される点で共通している上原美幸氏の授業実践「町をたんけんしよう」¹⁵⁾と甲府市立甲運小学校で行われた授業実践「みんなあつまれやっほいほい」¹⁶⁾を比較する。上原氏の実践は生活科が誕生した頃に行われ、町探検の後で、買い物調べを行い、お店やさんごっこが行われる(表9参照)。甲運小学校の実践は学習指導要領が改訂された後の平成15年に行われ、お店やさんごっこを発展したフェスティバルの企画がなされ、実行される(表10参照)。

「町をたんけんしよう」では、児童はグループに分かれて町探検をした後、お店で働く人に焦点をあてて買い物調べをする。お店の人の様子、お店の工夫等をよく調べるとともに、お店の人にインタビューをしている。お店やお店の人へのイメージが膨らみ、やってみたいという児童の思い・願いが生まれ、実際にお店から学んだことを生かしながら、身の回りにあるもので品物や道具を作ったり、売るための工夫や役割を決めたりして、お店やさんごっこを展開する。町探検やお店調べを通して社会認識の芽を育て、店やさんごっこを通してお店で働く人の工夫や努力を実感し、ものをつくる技能やみんなで話し合って決める力を育成している。

「みんなあつまれやっほいほい」では、秋の季節の変化を感じ取る活動と一体となってフェスティバルの活動が行われている。第1学年と第2学年の児童が合同でフェスティバルを友だちとかかわりながら試行錯誤しながら企画する。まず、フェスティバルで開くお店を考える。次に、どうしたらお客さんに喜んでもらえるかを考える。ものをつくる技能やみんなで話し合って決める力とともに、思考力や創造性を育成している。

両実践で育成される学力を比較するために、関心・意欲・態度、思考・判断、技能・表現、知識・理解の新学力観の4つの観点と学習上の自立と生活上の自立という生活科が求めている2つの観点について考察する(表11参照)。

表9 上原美幸氏の実践「町のたんけんをしよう」の授業展開

<p>【買い物調べの様子】</p> <p>町の探検をした後、お店で働く人に焦点をあてて、買い物によく行く店を調べてくる。</p> <p>C：とっても品物が新鮮でおいしい店です。</p> <p>C：安く仕入れて安く売っているそうです。</p> <p>C：買いやすいようにビニールに詰められています。</p> <p>C：レジでの計算が忙しそうでした。</p> <p>「近所の1番よく行くお店でインタビューしてきましょう」 という指示で、インタビューカードを持って、放課後誘い合っけて出かけた。</p>		<p>資料1 買い物調べのカード</p> <ul style="list-style-type: none"> ・店の名前 ・店で買った品物 ・店の人の様子、売るための工夫
<p>【お店やさんごっこの様子】</p> <p>「お店やさんごっこがしたい!」と言いだした。調べてきたお店の中で、やってみたいお店を決めてグループを作る。肉屋さん、本屋さん、ケーキ屋さん、プリマート、くだもの屋さん、お菓子屋さんになり、身の回りにあるいろいろな材料—空き箱、発泡スチロールの皿類、リボン、毛糸、ダンボール、袋類、画用紙、折り紙など—を使って、いろいろ工夫して品物やお店の道具をつくる。必要なものや役割などをみんな決めていく。</p> <p>お店屋さんごっこの日</p> <p>C：さあ、いらっしゃい!今日のお買い得です。 C：チラシを見て下さい。さあ、どうぞ。</p> <p>C：とても新鮮な、今来たところの果物ですよ。 C：おいしいケーキ!今日はイチゴショートがありますよ。</p> <p>お店の中をきれいに買いやすいように並べ、レジや買物袋などよく工夫する。</p>		<p>資料2 お店やさんごっこをしよう</p> <p>お店の名前・売る品物・材料</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 売るための工夫 2. 役割(だれがどんなことをする) 3. 作る日(だれが何をつくる)

出典：上原美幸「町のたんけんをしよう」生活科教育研究協議会編著『子どもが輝く社会科』あゆみ出版、1993、pp.52-59

表10 甲府市立甲運小学校の実践「みんなあつまれやっほいほい」の授業展開

<p>【学習の流れ】</p>												
1. 秋を見つけよう	…6時間	2. おまつりの計画をたてよう	…9時間									
3. 秋を見つけて、楽しもう	…16時間	4. 収穫の喜びを味わおう	…6時間									
5. 楽しく作ろう	…30時間	6. お祭りを楽しもう	…12時間									
<p>【おまつりの計画を立てようの様子】</p> <p>1年生・2年生合同で行う秋祭りの中で、自分たちはどんな「お店」にするのかを相談した。ゲームやさん・かざりやさん・おもちゃやさんの中から自分たちがやってみたいお店を決定する。せっかくの秋祭りなので、「秋の自然」を生かしたものを作っていくことを確認した。計画づくりをした。お店のために必要なものは何だろうな。</p>												
<p>【楽しく作ろうの様子】</p> <p>どのグループも、思い思いに材料を持ち寄って、設計図を確認したり、掲示した資料を見たり、一生懸命に作っていた。友達と一緒に相談しながら作っている子もいれば、1人で夢中になって作っている子もいた。</p> <table border="1" style="width:100%; text-align:center;"> <tr> <td>おもちゃやさんグループ</td> <td>かざりやさんグループ</td> <td>ゲームやさんグループ</td> </tr> <tr> <td>・動物 ・人形 ・置物</td> <td>・ペンダント ・ネックレス</td> <td>・クイズ ・くじ ・まと当て</td> </tr> <tr> <td>・ブンブンごま</td> <td>・ブローチ ・かべ飾り ・しおり</td> <td>・どんぐりゴマ ・とんとんずもう</td> </tr> </table> <p>「うまく穴があけられない」「木の枝がボンドではりつけられない」などの、作業中に起こった困ったことは、友達同士で教え合ったり、自分なりに工夫を加えたりしながら、解決していく姿が見られた。</p>				おもちゃやさんグループ	かざりやさんグループ	ゲームやさんグループ	・動物 ・人形 ・置物	・ペンダント ・ネックレス	・クイズ ・くじ ・まと当て	・ブンブンごま	・ブローチ ・かべ飾り ・しおり	・どんぐりゴマ ・とんとんずもう
おもちゃやさんグループ	かざりやさんグループ	ゲームやさんグループ										
・動物 ・人形 ・置物	・ペンダント ・ネックレス	・クイズ ・くじ ・まと当て										
・ブンブンごま	・ブローチ ・かべ飾り ・しおり	・どんぐりゴマ ・とんとんずもう										
<p>【おまつりを楽しもうの様子】</p> <p>①はじめの会 「これから秋祭りをはじめます。みんなで楽しいお祭りにしましょう。」 「ワッショイ、ワッショイ。」自分たちで作ったおみこしをかつぐ。 「わたしたちのお店は、〇〇屋さんです。楽しいから、遊びに来て下さい。」</p> <p>②お祭り突入 おもちゃやさん、飾りやさん、ゲームやさんなど全部で12のお店が建ち並んだ。1年生も2年生もお店番になったり、お客さんになったりとそれぞれの立場で楽しんでいた。おうちの方々もお客さんとして入って下さったので、自分たちのお店で作るものの作り方を説明したり、ゲームのしかたを説明したりと、お客さんに伝える方法も学んでいた。</p> <p>③おいもタイム お祭りのもう1つのお楽しみ「おいもタイム」。朝からお父さん・お母さんが準備してくれたおいも。自分たちが育てて収穫したおいも。「焼き芋は初めて。」という子どもたちもいて、もう最高の味だったようです。</p>												

出典：甲府市立甲運小学校 HP <http://www.koun-e.kofu-ymn.ed.jp/kenkyu/1,2.pdf>

表 11 お店やさんごっことフェスティバルで育成できる学力

	お店やさんごっこ	フェスティバル
関心・意欲・態度	◎	◎
思考・判断	○	◎
技能・表現（表現力・創造性）	○	◎
知識・理解（社会認識の芽）	○	△
学習上の自立（企画力・協調性・伝達力）	○	◎
生活上の自立（生活力）	○	○

※◎はかなり育成できる、○は育成できる、△は育成が不十分であることを示している。筆者作成。

関心・意欲・態度では、お店やさんごっこは児童からやりたいと言い出したことから意欲が高まっている。フェスティバルはフェスティバルをするという前提があるものの、夢中になって計画・準備をしていることから意欲が高まっている。

思考・判断では、お店やさんごっこもフェスティバルも、お店を開くためには何が必要か、どんな役割が必要かを考える。フェスティバルではさらに人を楽しませるためにはどうしたらいいだろうというところまで考える必要がある。

技能・表現では、お店やさんごっこもフェスティバルも、お店や商品をつくっている。お店やさんごっこはお店の模倣であるのに対し、フェスティバルはお店で売る商品やゲームを工夫するという創造性や、人を楽しませるための表現力がより必要となる。

知識・理解では、お店やさんごっこでは実際にお店で見てきたこと、聞いてきたこと、調べてきたことからお店やさんの工夫や努力という社会認識の芽が形成されている。フェスティバルでは売るという活動の場面に限定して社会認識の芽が形成されている。

学習上の自立では、企画力¹⁷⁾と協調性と伝達力がかかわってくる。お店やさんごっこもフェスティバルも計画・準備し、児童同士で話し合う。フェスティバルは自分たちで長い時間をかけて企画し、それぞれの役割を担っていくため、より企画し協調する必要がある。

生活上の自立では、生活力がかかわってくる。お店やさんごっこもフェスティバルもお店で買う立場と売る立場を経験し、お客にどのようなお店なのかを説明することで人と接する力や、いろいろなお店を巡ることで買い物ができる力が必要となる。

お店やさんごっことフェスティバルの実践を比べると、大単元のフェスティバルの方が、計画・準備に費やす時間が長いことで考える力や創造性や表現力、人と多くかかわることによって協調性や伝達力、手順や方法等を考えていくことによって社会の中で物事を企画する力をより育成できると言える。

4. 社会とのかかわりに関する単元において求められる学力

米田典子氏の授業実践「町となかよし!」¹⁸⁾から、町探検を大単元として組織することでどのような学力を育成しようとしているのかをみる。表 12 は「町となかよし!」の授業展開を示したものである。

この実践では、町探検を行った後に、児童が町の店で手伝いをする活動を行っている。この活動から、店の様子や店の人の工夫や努力、買い物に来る客の様子に気付くことができる。また、店の人や客との応対から、人と適切に接することが求められる。活動後に、お手伝いカードを友だち同士で見せ合うことで、自分のよさや友だちのよさに気付くことができる。このように、町探検という単元の中に、探検した町のお店の手伝いという活動を取り入れることで、社会認識の芽を育成し、人々とのかかわりを広げ、最終的に地域への愛着を培っている。

表 12 米田典子氏の実践「町となかよし!」の授業展開

【学習の流れ】	
○わたしたちの町にたんけんに行こう…19 時間	○町の人となかよしになろう…9 時間
○[わたしたちの町]発表会をしよう…… 6 時間	
【町の人となかよしになろうの様子】	
1. 6月の探検で知り合いになった人からお手紙ビデオがきた。(1) 町の人 10 人のお手紙ビデオを見る。町の人からの情報にも関心を示す。	
2. 町の人となかよしになろう (2) ①今度仲良しになりたい人を決める。 ②インタビューすることやお手伝いすることを考える。 ③お手伝いに行くために必要なことを班で話し合い、お手伝いカードに書く。	
3. 町の人のお手伝い大作戦! パート I (3) ①1 回目の町の人のお手伝いに行く。 ②農家 ①青果店 ②児童館 a ③公衆浴場 a ④畳店 ⑤児童館 b ⑥乾物店 ⑦雑貨店 ⑧公衆浴場 b ⑨書店 青果店では…あいさつをして、話をしたり、試しのお手伝いをさせてもらったりする。 C「どこから、野菜とか持ってくるの?」 C「どうやって、10 円とか決めるの?」 店: せりの説明をしてくれる。 C「何かお手伝いをさせてください」 店: 「じゃあ、パイナップルを店頭に並べてくれるかな」「次はミカンだ」 C「349 円、どうしよう。もう 1 個のせると、361 円になっちゃうよ」 店: 計量器の説明、「ずいぶんおまけだね」 C「うん」(ミカンを袋に入れ、お客さんに渡す) C「ぼく、売り込もう」(外に出て、客をさがす) ②1 回目のお手伝いの発表を聞き合う。 ③次回のお手伝いで、すること、準備するもの、気を付けることを考える。	
4. 町の人のお手伝い大作戦! パート II (3) ①2 回目のお手伝いに行く。 青果店では… 前回と同じところで自分たちで工夫したお手伝いをする。 C「25 円だって。今日は。今日で、2 回目のお仕事」 C「ねーねー、値段書きしたい」 店: 「値段 300 円って書いて」 C「できた。ミニリンゴってかいた」 店: 「おいしいよって書いて。売れるかもね」 C「わかった」「ジャジャン、へへへ」 C「180 円おつりです」 客「180 円は、おばさんもらいすぎちゃう」 ②お手伝いの様子をカードに記入し、友達と見せ合う。 ③お手伝いをしてきてよかったことをまとめる。	

出典: 米田典子「町となかよし」田中力・寺崎千秋編『子どもの学びを發展させる生活科の授業と評価 下』教育出版、2002、pp. 18-25

生活科の導入期にみられた買い物・乗り物・郵便にかかわる単元は、社会認識の芽を形成し、人々と物とのかかわりを見つめていくのに適していた。これらに代わり、町探検の大単元を設定し、地域の人々とのかかわりを通して、町の人々や地域社会に関する社会認識の芽を形成し、人間関係を広げ、地域で生活していく力を育成している。

IV. これからの生活科において求められる学力

導入期の生活科では、お店や公共交通や郵便局に見学に行き、その様子やそこで働く人々の様子や工夫や努力に気付くこともねらいの 1 つとされたが、買い物をしたり、乗り物に乗ったり、手紙を書いたりする生活技能がより重視されるようになった。また、ごっこ活動を行うことで、友だちとかかわり方や思考力、創造性を身に付けさせることがねらいとされた。平成 10 年度版学習指導要領に対応する生活科では、買い物や乗り物や郵便にかかわる単独での単元がなくなり、それに伴いこれらのごっこ活

動も単独では行われなくなった。ごっこ活動で培ってきた力の多くは、フェスティバルや町探検の大単元の流れの中で活動の1つとして位置づけられることによって育成される可能性を秘めている。フェスティバルでは、ごっこ活動以上に社会の中で物事を企画していく力を育成し、町探検では、身近な地域社会を認識すると同時に地域で生活していく力を育成しようとしている。

生活科においては、自分と社会とのかかわりに関する活動や児童に身に付く力が不十分であるという課題があった。また、今日の社会では、人とかかわりや地域とのつながりが希薄化しているという社会的問題がある。したがって、これからの生活科では、多様な人々と地域とのかかわりに関する活動を計画的に設定し、近年の生活科で重視されてきている社会の中で物事を企画していく力と同時に地域で生活していく力をより育成していく必要がある。

【注】

- 1) 全国社会科教育学会編『社会科教育学研究ハンドブック』明治図書、2001、p. 415
- 2) 寺本潔「生活科が変えたこと、セレクト10」日本生活科教育学会編集委員会編『せいかつか第4号』初教出版、1997、pp. 10-14
- 3) 澤田妙子・炭山泰江・常木初野「生活科で育ってきた資質や能力」日本生活科教育学会編集委員会編『せいかつか第4号』初教出版、1997、p. 22
- 4) 教育課程審議会中間まとめ『教育課程の基準の改善の基本方向について』1997
- 5) 日本社会科教育学会『社会科教育事典』ぎょうせい、2000、p. 51
- 6) 日本生活科・総合的学習教育学会は、2003年11月に小学校3年生、6年生、中学校3年生、高等学校3年生の合計2,554名を対象として調査を行った。野田敦敬他「生活科で育った学力についての調査研究」日本生活科・総合的学習教育学会編『せいかつか&そうごう第12号』初教出版、2005、pp. 101-109
- 7) 有田和正『学級作りと社会科授業の改造 低学年』明治図書、1985、pp. 165-178
- 8) 生活科教育研究協議会編『わたしたちの創る生活科』あゆみ出版、1992、pp. 100-108
- 9) 教育課程審議会答申『幼稚園、小学校、中学校、高等学校、盲学校、聾学校及び養護学校の教育課程の基準の改善について』1998
- 10) 文部省『小学校学習指導要領解説生活編』日本文教出版、1999、p. 16
- 11) 前掲10、pp. 3-4
- 12) 前掲10、p. 6
- 13) 平成元年版と平成10年版学習指導要領のそれぞれに対応している教科書の中から目次の変遷がとらえやすいものを取り上げた。
- 14) 東京書籍や啓林館の教科書でも、改訂を重ねる度に買い物、郵便、乗り物の活動が姿を消している。
- 15) 上原美幸「町のたんけんをしよう」生活科教育研究協議会編著『子どもが輝く生活科』あゆみ出版、1993、pp. 52-59
- 16) 甲府市立甲運小学校 HP <http://www.koun-e.kofu-ymn.ed.jp/kenkyu/1,2.pdf>
- 17) 願いや思いの実現に向けて手順や段取り・方法等を考え計画する力であるとしている。前掲3
- 18) 米田典子「町となかよし!」田中力・寺崎千秋編『子どもの学びを発展させる生活科の授業と評価 下』教育出版、2002、pp. 18-25

※本稿は別府志保「生活科に求められる学力の検討」(平成18年度卒業論文)を基本として、自分と社会とのかかわりに関する学力の変遷に焦点をあて、永田が加筆・修正したものである。

